



イラスト：よしだゆうこ

出典：ベネッセ教育情報「まなびの手帳」アプリ「どうなる!? 息子2人の大学受験…イマドキ保護者の悶えるホンネ」

初出：2023年10月9日、2023年9月25日、2023年8月14日、

2022年12月12日、2022年9月12日、2022年8月8日、2022年1月21日

連載の内容が気になる方は「まなびの手帳」アプリをダウンロードしてご覧ください

お子さまの幸せを願う全ての保護者の皆さまへ—— 受験生の子どものために、 私たち保護者ができること

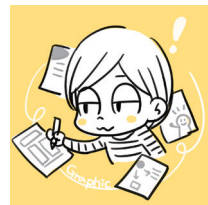
「子どものために」と思って言ったことが、逆効果になってしまった——。保護者なら誰しも経験したことがあると思います。そこで、受験期の「親子のコミュニケーション」について、昨年、次男の大学受験を終えたよしだゆうこさんにお聞きしました。

コロナ禍で臨んだ大学受験 子どもも保護者も不安でいっぱい!?

——コロナ禍で人々の生活が一変したなか、受験生のお子さんとのように向き合いましたか。

新型コロナウイルスが世界的にまん延した2020年は、ちょうど長男が大学受験を迎える年でした。高校が休校になり、外出もできず、息子の気持ちがちが沈んでいくのがわかりました。勉強へのモチベーションが下がると同時に成績も下がりました。

無気力な息子のために何ができるだろうと悩んだ結果、私が心掛けたのは「情報収集」です。勉強するのは長男ですが、大学の情報を調べることは長男保護者の私にもできます。大学のパンフレットを取り寄せ、見比べて、「こういう大学があるよ」とプレゼンしました。これが功を奏したのか、長男の



よしだゆうこ氏

男子母歴20年以上のイラストレーター、漫画家、グラフィックレコーダー。ベネッセ教育情報サイト「まなびの手帳」に「どうなる!? 息子2人の大学受験…イマドキ保護者の悶えるホンネ」を連載中。

大学パンフの取り寄せ方はカンタンです!

●スマホで



受験期の子どものために、
何をしたらいいかわからない!

情報収集をして「話し相手」になる /

最近の大学入試にはいろいろな制度があって、早い時期に入試が行われるものもあります。入試方式や出願・入試日、入学手続き締切日など早めに情報収集しておけば、お子さんの



「話し相手」として相談に乗ることができず。
▶ 本誌「2025年度入試はこうなる」もお読みください。

親子のコミュニケーション Q&A

受験生の子どものことが心配で、
何も手に付きません……。

「楽しい雰囲気」が自立心を育む /

高校の先生に「保護者は何もせず、遊んでいてください」と言われたことがあります。最初はびっくりしましたが、先生が保護者に伝えたかったのは「放任」ではなく「静観」という



ことだったのです。保護者が楽しく過ごしていると、子どもも安心して勉強に取り組むことができます。

「お金」を理由に発破を掛けて、
子どもに嫌われてしまいました。

あくまで冷静に、そして前向きに /

私も経験があります。お金が掛かっていることそのものを責めているのではなく、勉強をしない子どもへの不安や焦りからの発言ですよね? そのことに気がついて、「大人気なかった」と反省しました。ありきたりですが、冷静に、そして前向きな態度でお子さんを見守って



れば、きっと以前のような関係性に戻れると思います。
▶ 本誌「大学受験・進学費用のキホン」もお読みください。

趣味に打ち込んでいる
子どもを叱ったら、
ぎくしゃくした関係に…。軌道修正するには?

好きなことを否定しない /

次男がゲームセンターでゲームばかりしていた時期があり、そのときは親子関係がぎくしゃくしました。私は「子どもの好きなことに食らいつく作戦」で乗り切りました。一緒に行ってみたところ、これが楽しい(笑)。好きなことを否定しても信頼は築けません。ぜひ試してみてください。

保護者の情報収集も大切です。

大学パンフの取り寄せはこちらからできます。
プレゼントが当たります。詳細はp.4をご覧ください。



昨年はお子さんが大学受験をされたとか(*)。

気持ち少しずつ前向きになっていきました。
一方、これはよいのかどうかはわかりませんが、次男は共通テストの出願を忘れたことがあり「私がやる!」と宣言し、出願のサポートを行いました。今の時代、情報収集はインターネットでできますし、多くの大学でWeb出願を導入しています。事前に出願期間や入試日などを調べ、必要事項を入力して、最後に息子が確認することでWチェックになります。このやり方のコツは必ず本人がエンターキーを押す……です。自分事だと再認識できるようです。

音楽が好きだから、音楽を仕事にしたいのだと。次男のときも情報収集から始めましたが、好きな音楽について学べる大学が見つかりません。あらためて問いかけたところ、「僕は理系科目が好きだから理系がいいかもしれない。音楽は学びたいというより好きだからこそ趣味で続けたい。」と言出し、理系学部受験という目標が見つかりました。方向性が定まったことで前向きに取り組み始めた次男を見て、保護者としてほっと胸をなでおろしました。
実は長男の受験のとき、「勉強しなさい」と言い過ぎて後悔したことがあります。勉強についてとやかく言っても、子どもは反発心を抱くだけで、なんの効果もありませんでした。次男のときは「勉強の話は出さないで」と先手を打たれたくらいです。勉強に関しては無言を貫いて、さりげなく勉強しているか観察する。受験期の子どもの距離感は、このくらいがちょうどよいのかもしれません。

——お子さんとの関わりで、日頃から心掛けておくことはあります。わが家は夫も私も家で仕事をしているので、家族全員で一緒に過ごすことが多いです。毎日全員で食卓を囲んでいます。食事中はテレビをつけず、



特に受験期は「子どもは大丈夫だろうか」と不安や焦りからネガティブなことを言ってしまうがちですが、ネガティブな言葉は子どもを落ち込ませるだけで、よいことは何もありません。子どもが不安を言っても、私自身は明るく接するよう心掛けてきました。模試の結果が悪かったとしても、「受け止めるのは本人」と腹をくくり、保護者の私は、「はい、次いこう!」と前向きな声かけをしました。内心は冷や冷やでしたが(笑)。

良い結果も悪い結果も、子ども自身が受け止めて初めて次のステップへ進むことができるように思います。次男も模試の結果を分析し次に何をすればよいのかわかっていました。私がしたことといえ、追加で参考書を買うのなら言ってみよう」と話したくらいです。子どもが自分の力で可能性を見いだし、将来の選択肢を増やせるように。
——受験生のお子さんを持つ保護者にメッセージを。
保護者は子どもに「幸せになってほしい」と願うからこそ、「もっと勉強しなさい」などと言ってしまいますよね。でも、高校3年生という年齢や繊細な受験期であることを考え合わせると、保護者の声掛けは逆効果になってしまうこともあります。私もそのことがわかっていない時期があって「また言ってしまった」と何度も後悔したことがあります。
社会も私たち保護者世代が大学を受験した頃から大きく変化しています。子どもが自分なりに描いた目標を聞いて、「こっちより、あっちの道のほうが楽なの」と思うことがあっても、温かく見守ることが大切なのだと思います。「大学受験なんて、取るに足らないことなんだ」と笑い飛ばしてしま



私自身は、ありがたくも自分の得意分野を生かして、漫画家という仕事をさせてもらっています。子どもたちにも、常にアンテナを張って、「自分しかできないこと」を見つけてほしいですね。保護者として、子どもたちが自分の力で可能性を見だし、将来の選択肢を増やせるような関わり方ができたらと願っています。
受験生の子どもの接し方を学べる動画を用意しました。
ぜひ、体験してください。

